



『新たな出会い』

プリヨ・スサント神父

皆さん、はじめまして。プリヨ・スサント神父と申します。と申しながら、実はまったく初めての「はじめまして」ではないのです。わたしが名古屋に来てYWCAや南山大学で日本語を勉強する間の二年間あまり、大変お世話になりました。まったく新しい環境で新

しい言語を覚えようと必死だった時代を今振り返ると皆さんの支えの重大さにただただ「神に感謝、みんなさんに感謝」です。あのことから十五年以上たった今、また、神のお計らいでしょうか、皆さんの暖かい懐に戻ってきました。また、お世話になります。

この新しい任命を受けたとき、私は少し戸惑いました。福井教会に合計八年主任司祭として勤めて、やっと落ち着いたと思ったら、異

動の「命令」が下されました。従うしかないと思いつつも、「わたしはこんな大きな教会共同体である城北橋教会のために何ができるだろうか」、「皆さんの期待にこたえることができるだろうか」など、心細くていろんな心配事に襲われました。

引越しの準備をしながらわたしは思いました。ここ（福井教会）に留まることは、自分にとって一番楽なことなのですが、ここから出なければ、城北橋教会の皆さんとの新たな出会いはないのだろうと。今与えられた任命は新たな出会のチャンスだと。今までの出会い、そしてそれにもたらされた喜び、生き甲斐、祈り、働きなどを人生の宝として心に納めて、新たな出会いを求めて行こうと。人生は旅なのだ。この旅の最中により多くの旅の仲間と出会うと。

信仰も出会いそのものです。わたしは、神との出会いと隣人との出会いを言っています。どうやって私は洗礼を受けてキリスト者となったかを思う時、どうしても出会うという言葉が離れられないの

です。わたしは幼児洗礼でしたが、親がキリスト信者であるからこそ、そうさせられてくれたに違いありません。わたしにとってキリスト信者の親の間に生まれたことは、かけがえのない出会いです。大人になつてから洗礼を受けられた人はもつとすばらしい出会いを体験したと思います。いずれにしても、その神との出会いがまた次の出会いへと不思議に導いてくれます。

城北橋教会の皆さんとの出会いは、こうして運命でもなければ、たまたまのことでもありません。いろいろな形で、いろいろな方法で、いろいろな場面や場所で神との出会いが今の出会いをもたらすとわたしは信じています。この出会いがよい実りをもたらしますように。

